

新潮社記念文学館がおくる8月の戦争文学

『高井有一「櫟くぬぎの家」
を讀む』

「庭に十二本の櫟の木があった。」

郷土の芥川賞作家、高井有一の少年期の戦争体験はここから始まる。

高井有一「櫟の家」と古井由吉「赤牛」の二篇は、

少年の目を通した戦争の有様を描くことになる。

ゆえにみずみずしく、妨げる思想のない

素直な観察眼が胸を搏つ。

「コレクション戦争と文学」⑮ 戦時下の青春（集英社刊）収録

解説 銃後の苦界 浅田次郎より



日時 8月2日
(木)
午後1時30分～

主催 新潮社記念文学館（仙北市角館町）

共催 新潮社記念文学館ボランティア「やさいの花」

【問い合わせ先】

新潮社記念文学館 ☎ 0187-43-3333（仙北市総合情報センター内）